



横浜銀行 ニューヨーク駐在員事務所

週間トピックス Vol. 506 (2020. 2. 21)

<今週のトピックス>

ニューヨークで最も貸出された本とは

ニューヨーク（マンハッタン）へ観光に来られた方が、立ち寄るスポットとして、「ニューヨーク公共図書館（The New York Public Library）」があります。

ターミナル駅「グランドセントラル駅」（当駅も主要な観光スポット）から徒歩数分の好立地にあり、図書館の裏手には、憩いの公園「ブライアントパーク」があり、日夜、ニューヨーカーや観光客で賑わっています。

ニューヨーク公共図書館（The New York Public Library、NYPL）が開館したのは、1895年。今から125年前になります。

先日2月14日のバレンタインデーに、NYPLは、開館125周年を記念し、「私たちの愛する125冊」（125 Books We Love）を発表しました。図書館の司書やスタッフらが選んだようです。

その愛する125冊のなかには、アガサ・クリスティ著の「そして誰もいなくなった」、J.D.サリンジャーの「ライ麦畑でつかまえて」、F.S.フィッツジェラルドの「グレート・ギャツビー」などの名著に加え、2017年にノーベル文学賞を受賞したことも記憶に新しいカズオ・イシグロの「日の名残り」も選出。日本人作家としては、村上春樹の「ねじまき鳥クロニクル」も選ばれていました。



また、NYPLは、これまでに最も多く貸出された本を発表しました。

1位に輝いたのは、1962年に出版された絵本「ゆきの日」で48万5,583回貸し出されたようです。2位は、アメリカでは大人気の絵本作家ドクター・スースーの「ザ・キャット・イン・ザ・ハット」。トップ10のうち、半分は児童図書が占めるという結果になりました。

児童図書が上位となった背景として、学校が児童に毎日の読書を宿題としていることが多く、推薦図書のリストも配布。その推薦図書に載っていた図書が上位にランクイン。もう一つの理由は、児童図書は、読み終わるのに日にちがかからないので、借りたらずぐに返却されるため、貸出カウントの増加につながったようです。

そのほかの理由として、多言語で出版されていることも、借りる人の多さに繋がったようです。日本でもファンが多い、絵本作家エリックカールの「はらぺこあおむし」は、世界60か国語以上の言語で出版されており、多様な人種が生活をするニューヨークでも、人気があることがよく分かります。

ニューヨーク観光の際には、「ニューヨーク公共図書館 (The New York Public Library)」にも足を運んでみてはいかがでしょうか。

<ニューヨーク公共図書館、歴代貸出本トップ10>

1. 「ゆきの日」 (The Snowy Day) 【Ezra Jack Keats】
2. 「ザ・キャット・イン・ザ・ハット」 (The cat in the hat) 【Dr. Seuss】
3. 「1984」 【George Orwell】
4. 「かいじゅうたちのいるところ」 (Where the Wild Things Are) 【Maurice Sendak】
5. 「アラバマ物語」 (To Kill a Mockingbird) 【Nelle Harper Lee】
6. 「シャーロットのおくりもの」 (Charlotte's Web) 【E.B. White】
7. 「華氏451度」 (Fahrenheit 451) 【Ray Bradbury】
8. 「人を動かす」 (How to Win Friends and Influence People) 【Dale Carnegie】
9. 「ハリー・ポッターと賢者の石」 (Harry Potter and the Sorcerer's Stone) 【J.K. Rowling】
10. 「はらぺこあおむし」 (The Very Hungry Caterpillar) 【Eric Carle】

(出所：The New York Public Library HP、NBC New York)

- ・本レポートは情報提供のみを目的として作成したものであり、何らかの行動を勧誘するものではありません。
- ・ご利用に関しては、すべてお客さまご自身でご判断くださいますよう、よろしくお申しあげます。
- ・本レポートは信頼できるとされる情報に基づいて作成していますが、当行はその正確性を保証するものではありません。
- ・本レポートのご利用によりお客さまがいかなる損失、損害を受けられても当行は一切の責任を負いません。
- ・本レポートはお客さま限りでご利用くださいますようお願いいたします。